

2013年4月2日

各位

三井住友ファイナンス&リース株式会社

### 中期経営計画について

三井住友ファイナンス&リース株式会社（取締役社長：川村 嘉則、以下「SMFL」）は、2013年度から2015年度までの3年間の計画期間とする中期経営計画を策定いたしましたのでお知らせ致します。

国内マーケットの成熟化による競争激化、超低金利の継続など、リース業界を取り巻く環境は厳しさを増しております。一方で、環境・エネルギー、医療・介護分野などの新たな成長分野やアジアを中心とする海外ビジネス等、中長期的なビジネスチャンスも着実に広がりとあるといえます。

2007年10月の合併による誕生以降、当社は旧社の円滑な融合を実現し、資産・利益で国内トップクラスの規模を誇るリース会社としての地位を確立してまいりましたが、このような環境を踏まえた上で、今後3年間については、経営方針である「グローバルベースでモノに関する金融ソリューションを提供し、圧倒的な存在感を有する業界No.1企業として、最高の評価を受けること」を実現するために、当社の強みである「顧客基盤」「営業力」「グループ力」を活かして新たな成長を実現するステージと位置づけ、以下の方針に沿った中期経営計画の運営を行ってまいります。

#### ■経営目標

「顧客基盤、事業領域の強化・拡大による国内安定収益の獲得」

景気低迷の長期化、生産拠点の海外移転の加速もあり、国内リースマーケットは停滞を続けていますが、インフラ更新需要や環境関連投資等の設備投資ニーズも見込まれ、中長期的には一定の市場規模が維持されると考えられます。既存ビジネスの強化に加えて、環境・エネルギー、医療・介護等の成長分野への展開、モノのハンドリング力を活かした中古売買・レンタルビジネスの拡充を積極的に進め、国内リース市場におけるシェアを拡大し圧倒的なトップの地位を確保することにより、安定した収益を確保していくことを目指します。

「グローバル金融体制の確立による海外成長機会の実現」

アジアを中心とする新興国の成長は今後も継続し、日系企業や海外地場企業の資金需要も堅調な伸びが続くと見込まれています。当社の強みであるグローバル販売金融の展開を一層強化する一方で、海外に進出する日系企業のニーズに応える体制づくりを進めていきます。また、海外航空機リースビジネスについては、新興国の成長に伴う旅客輸送量の増加やリース比率の上昇により安定した成長が見込まれますが、昨年6月に業務を開始した SMBC Aviation Capital を通じて、航空機リース資産の積極的な積み増しを行い、グローバルな成長機会を着実に実現していきます。

「効率的な業務運営による経営資源の確保と有効活用」

上記のような国内事業の強化、海外事業の展開を進めていく上で、営業・管理それぞれの組織において、一層の業務効率の向上を進め、経営資源の有効活用を進めていきます。

■財務目標（2015年度）

- ・2012年度末比で連結営業資産残高+5,000億円以上
- ・連結経常利益 600億円
- ・連結・単体 OHR\*40%程度

\*OHR (Overhead Ratio) : 経費率

■業務戦略

上記の経営目標・財務目標を実現するために、以下の6つの業務戦略を実施していきます。

- ①顧客・サプライヤー対応力の向上による国内シェアアップ
- ②成長事業領域の拡大
- ③アジア・新興国を中心とした海外ビジネスの加速
- ④航空機リース事業の成長基盤の確立
- ⑤安定的・効率的な経営インフラの整備
- ⑥成長を支える人材の育成と役割に応じた制度改定

以 上